

沖縄語 かわら版

沖縄語を話す会会報

第11号

2008年7月1日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 真正

電話 & F a x 044-988-8065



2007年12月1日 忘年会「勉強会場で」

「^{おきなわ} ^ご ^{はな} ^{かい} ^{ちち} ^た ^{けーん} ^{あち} ^{びんちよー} ^{ふい} ^{しながわ} ^{あーさき}
「沖縄語を話す会」 月に二回集まてぬ勉強会、品川ぬ大崎をて

・ ^{よん} ^な ^{さん} ^と ^{ぶし}
四無い三取る節-----石原末子

・ ^{うちな} ^ー ^{ぐちまむ} ^{んかし} ^{けん} ^{さだ}
沖縄口守たる昔ぬ県ぬ定め-----船津好明

・ 会報に出てきた語句の説明

・ 事務局から

ホームページ <http://www.wwq.jp/p/>

八重瀬町字富盛の言葉

沖縄南部の各地域の言葉を音声収録して、これを私どもの書き方(沖縄文字を使用)で表記してみようと試みております。

今回は、八重瀬町字富盛の言葉を録音してテープ起こしをしました。

石原末子さんは、純粹の富盛言葉を話せる方です。言葉の抑揚、つまり調子を上げたり下げたり、また、強めたり弱めたりすることは、勿論表記することは出来ませんが、発音は私どもの書き方で適切に表記出来ます。

文中*印は聞き取りにくいところですが、文の前後から判断して、意味は十分理解できます。

出来るだけ音声の通りに表記しました。(國吉)

しんしよー げんき とむい いしはらすえこ
眞正さん。元気やれー。富盛ぬ石原末子やしが、

わ げんき
我んにん元気やしえー。

わったー とすい ちゃー も うた
我達よー、年寄ぬ達が、あぬ、舞ーたいする歌やし

がてー、よんなさんとぶし んていし、うりよー、わ

んが、わったーとむいとば ゆんー
んが、我達富盛言葉つし読ぐ見だいでー。

よんな んていし へい こころ
「四無い」んていしーねーやー、「冷えない」、「転ばな

い」、「なま へい せん と
い」、「怠けない」、「争わぬ」、「うぬ四ちてー、「三取

る」んていししえーやー、「やしえーくたもの と きゅーよー
る」んていししえーやー、「野菜果物を取る」、「休養

と と やくわり と みー よんな
を取る」、「役割を取る」うぬ三ち、あんし、「四無い

さんとぶし んていし ばー
三取る節」んていしちよーる場てー。

ま ひ わらび ちゃー がんじゅーむん みー
と先ず、「冷えない」やー、童ん達や頑丈者、新

にしとんじーん跳に飛ばち、みじはなだ ぶー し
にしとんじーん跳に飛ばち、水洩垂い小そーて、済ま

ちゃーんてん。としぶーど し ぶ
ちゃーんてん。年小取いねー、済まさらんさ。冷じゅ

いみせーねー、はいえん ちぬ かさ ぬく
いみせーねー、肺炎どー。衣ん重びて、温たまて、

ぶーたー にーせーたー がんじゅーむん くる は
あん小達人二才達人頑丈者、きつちやき転ぐん、跳

に起きて、あがよーなーそーて、しまちゃんてん。年

ぶーど し ぶにち ね
小取いねー、済まさらんどー。ふいさ骨折いねー、寝た

きりどー。しこーてからど、くる ばりーる。

テレビん、クーラーんしたねー物。朝から晩まで、

ただいちよて、に 寝んたい起きたいっし暮らすしやか、

すり すり あっ
揃ー揃ーっし歩ちやびらな。

ふゆーしーねー、ぶー 胸くふゆんどー。てー ぶんさん ぶんじゅ
ふゆーしーねー、胸くふゆんどー。手ぶんさん動かち、

はまやびらな。

ちゃくし うぶ ちゆな とし
嫡子ぬまからーふどあーちん、大っ人成たくど妻

どめーて、うや めー しがた み
どめーて、親ぬ前にんかーぎん姿ん見しらんくと、

わじわじー、くさくさー目くふて。ぬ びーみそーれー。

ぬ ぶりやびらな。うりど 立つしん
伸びやびらな。うりど立身やいびーる。

しし、かまぶくからあしびち、ちぶぶー
しし、かまぶくからあしびち、肝小、らふてー

さんまいにく ぶ いっべー
三枚肉、うさぎー欲さー、一杯あいびーしが、ちゆ

が ため あらむんじょーぐ ちよーみー
かた噛みや、為ーあらんさー。荒物上戸ど長命や

る。やしえーくたもの
る。野菜果物うさがみそーりよー。

パイナップルからきびづく、ゲートウポールにかちや

ーしー、と もーやー、まし 済むしが、よーい

よーいどしみしえーんどー。くたんてーしん 恐るしむ

ん。ひる酒うさがて 憩みそーれー。

ぶー ちゃー ちど
つ子ぬ達んよーやくふどあーち、勤みんうちなち、

なー、やしが、じんせいはなみちなま
なー、やしが、人生花道今からどー。

をじーんをばーん ちば 気張みそーれー。で ばんやくわり と
をじーんをばーん気張みそーれー。出番役割ひつ取

やーに、い が いちゆく い
やーに、生き甲斐作て、行ちやびらやー。

ちゃーやたがやー。

那覇ぬ町んかい行じよー、くぬテープがあらー買てま
じゅーん送いさ。なー、我達ん平生や、共 通語びけ
ーんど使ーくどよー、なー、方言ん・・・。

やーがやー、三月二十日に、二十日あらん三月八日
どやんてー、沖縄タイムスぬ論壇んかい載したる「島
くどばじせたい」んて言し、読て、なー、一杯我んね
ー、* * 肝打たっどしがてー、だー、なー、我達や、
なー、一杯、なー、やー、やー、ゆー、やーが言ん通
いやさんて思どしがてー、なー、何ぬ手助きん成ら
ん、なー、くねーて取らしえー。

やーが言る如に、なー、島言葉表 記法研究 委員会
んて言しが、立ち上がらしーねー、なー、一杯上等
んて思どしがてー、なー、いつ達る頼まりーる、な、
わったぬー 我達何ん成らんむん。



沖縄口守たる昔ぬ県ぬ定み

船津好明 (小平市)

平成 1 8 (2006) 年に作らったる県ぬ「しまく
とっぱの日」ぬ定めー、沖縄口守ゆる初みてぬ定み
んて思とーるっ人ぬ多さんねーすが、実ー初みて
ーあらん。昔ん定みらっどーたん。やしが戦世や
たくど、うぬ事ー知らりらんま成とーん。

昭和 1 5 (1940) 年て言ーねー、8 月 2 日 柳

宗悦 (宗悦) が大和口と沖縄口ぬ事に付て、
知事んかいしーち掛かやーに、
「無ーん為すん」て言しみたる年やしが、
沖縄口ー押し退きてー成らんて言る県ぬ定みぬ
作らっどーん。定めー下ぬ通いやん。

『戦世ぬ暮らし益し為する為ぬ細ーきたる手段

1 ~ 4 飛ばち、

5、大和口広みーる事ー、国ぬ立場から見じーね

ー、国ぬ言葉ーち為すしえー一杯大切やて、急が

んだれー成らんあい、県民御万人ぬ栄ーゆる為に

ん、如何ーしんさんだれー成らん事やくど、是非御

万人んかい解らさんだれー成らん。また、うぬ場所

ねー沖縄口ー押し退きゆんて言る考ーさりらん

如、色分きて考ーらんだれー成らん。』

くぬ定めー、戦後外間守善んかい見ー付きりー

る間ー、知らりらんたん。

くぬ定み作ゆしんかい係わたしえー、県学務部

かい居たる新崎寛直んて言る視学やたん。くれー

戦後、吉田嗣延が昔思出じゃち解たる事やん。新

崎達がくぬ定み作れーやーんて思たしえー、大和口

びけー押し付きーねー、沖縄口ーやがて無ーん成

えーさにて心配さる故どやる。定めー学校んかい

ん配らっどぬ事やん。

かんし、^{けん}県どっしえー^{うちなーぐちえ}沖繩口ー^{うぬ}押し退きてー^な成ら

んて^ゆ言る^{さだ}定め^{ちゆく}作^{ほーげんふだ}たしが、^や方言札ー^{ほーげん}止まんたん。方言

札ー^{ふだ}定め^{さだ}みんな^{すむ}かい^や叛^しちょー^くくと、^や止^しみらし^わわど^し済^むむし

が、^{いくさ}戦^なぬ^ううす^なましく^う成^うて、^{うちなー}沖繩^やア^{アメリカ}リ^カン^かい^いさ

つて、^{けの}県ー^し仕事^なん^な成^ねらん^{けの}成^{さだ}て^無ー^らん。県ー^くぬ^{さだ}定め

っし^{ほーげんふだ}方言^や札^う止^うみ^ぬら^くち、^う沖^ぬ繩^ぐ口^ごー^う押^ごし^退き^らん^如御

まん^{ちゆ}人^やん^まかい^と大^{かんげ}和^い口^く広^いみ^ゆー^いる^い考^いー^くや^ゆた^いしが、^{いくさ}戦^ゆぬ^い故

に、^{さだ}定め^{やく}役^だ立^たす^るま^どー^ね無^んー^んたん。

^{うちなー}沖繩^{けん}ぬ^な「^な県^な」^な成^なて^てから^な今^てま^にど^にぬ^ま大^ま概^だ130^に年^まぬ^だ間^だ、

県^{けん}ぬ^く言^と葉^ばに^ち付^しー^して^しぬ^じ政^し治^{ちや}ー^ぐ下^ごぬ^か如^ど変^かわ^とと^ーん。

県^{けん}成^なたる^あ後^と、^う沖^う繩^ち口^ち大^や和^ま口^とん^かかい^い変^けー^たゆ^みる^な為^なか

い、^や大^ま和^と口^ちど^ち広^るみ^たる。

^{しよ}昭^わ和^{じゆ}1^ー5^ー(1940)年^に、^う沖^う繩^ち口^ちー^ぬ残^くち、^う押^うし^ぬ退^ぬき

らん^ぐ如^ごし^んて^さぬ^だめ^ち定め^ち作^ちたん。

^へ平^せ成^{じゆ}1^ー8^ー(2006)年^に、^う沖^う繩^ち口^ち広^るみ^て、^わ童^らん^{ちや}達^んか

い^{なら}習^ゆー^さす^だん^ちて^ち言^ちる^ち定め^ち作^ちたん。

沖縄タイムス昭和38(1963)年6月23日「沖縄における共通語の歴史(9)」(外間守善)より

(昭和15年の県布令)

『戦時下に於る県民生活の刷新向上に関する具体的方策

1～4項 省略

5、標準語運動に際しては、国家的見地より、国語の純正統一の重大性、緊急性と、県民発展の必須的要件なる所以とを極力強調すると共に、特に方言を貶すが如き誤解を招かざるやう注意すること。

』

会報に出てきた語句の説明

(沖縄語辞典、広辞苑による)

- ・うり：それ。そのこと。
- ・新にし：秋ごろに吹き始める北風。
- ・どんじー：冬至^{とーじ}に行う祭り。
- ・冬至：冬至。二十四節の一つ。
- ・水漬垂い：水ばな。鼻みず。
- ・温たまゆん：暖まる。
- ・あん小：姉。ねえさん。
- ・二才：二才^{にーしえー}の意。青年。
- ・きっちゃき：つまずき。また、失敗。
- ・あがー：痛い！。
- ・ふいさ骨^{ぶに}：足の骨。
- ・しこーゆん：用意する。準備する。
- ・したね^{むん}ー物：困ったもの。扱いにくいもの。
- ・いゆん：すわる。
- ・ただいちょて：ただすわって。
- ・ふゆー：物ぐさ。無精。
- ・くふゆん：堅くなる。固まる。
- ・手ふいさ^{てー}：手足。
- ・ふどあーすん：せいたけを伸びさせる。成長させる。
- ・どめーゆん：拾う。(落し物を)拾い上げる。求める。
- ・かーぎ：姿。また、容貌。
- ・わじわじーそーん：まさに怒りが発せんとしている。
- ・くさくさ：くさくさ。気がめいり、心がふさぐさま。
- ・かまぶく：かまぼこ。
- ・あし^てびち：料理名。豚の足の料理。
- ・うさぎゆん：押し上げる。ささげる。差し上げる。
- ・うさぎ^ぶー欲^ぶさん：差し上げたい。
- ・ちゆかた：一方。一事に専念すること。
- ・ちゆかた^が噛^がみ：偏食。
- ・荒物^{あらむん}：粗い物。粗食。

- ・かチャーシー：三味線の曲の一種。ジャズのように急テンポで乱調子のもの。
- ・飛んじゃー舞ーやー：欣喜雀躍。
- ・くたんでゆん：くたびれる。疲れる。疲労する。
- ・ひる酒：にんにくを酒につけたもの。
- ・うちなすん：すっかり終える。済ます。
- ・まじゅーん：一緒(に)、共(に)。
- ・びけーん：ばかり。
- ・肝打たりゆん：心を打たれる。感動する。
- ・くねーゆん：こらえる。我慢する。
- ・多さんねーすん：多いようである。
- ・しーち掛かゆん：つめ寄る。
- ・いぬまんぐる：同じ頃。
- ・押し退きゆん：押し退ける。排除する。
- ・細ーきゆん：つつましくする。細かく注意を払う。
- ・手段：手段。てだて。方法。
- ・御万人：人民。多くの人。
- ・色分きて：特に。とりわけ。特に区別して。
- ・見一付きゆん：見つける。見いだす。
- ・視学：旧制の地方教育行政官。府県視学・郡視学・市視学などがあり、学事の視察、教育の指導監督、教員の任命等をつかさどった。
- ・無ーん成えーさに：無くなりはいしないか。
- ・叛ちゆん：そむく。後ろを向く。
- ・うすまさん：すごい。ものすごい。
- ・まど：あき間。すき間。仕事の合間。
- ・役立たするまどー無ーんたん：役立たせる暇はなかった。

*本文では、語句は活用されていますので、ここに示しました語句とは必ずしも一致しておりません。

事務局から

今回は、初めて地域の話者の音声をテープに収録して、その表記を試みてみました。話者は石原末子(旧姓：具志堅)さんと、旧東風平町字富盛で生まれ育てられる方です。

彼女は私の小学校からの同級生ですが、同期生会で字富盛の言葉でスピーチされた時、なんだか故里へ帰ったという実感がわいてきました。幼いときに聞いた音声を再び聞くことができ、懐かしくなりました。やはり、同じうちなぐちとは言え、幼少の頃育った地域での言葉を聞くと、気持ちが落ち着くものです。

旧東風平町は13字がありましたが、それぞれの字ごとに微妙に言葉の抑揚が異なっておりました。この微妙な言葉の抑揚の違いは、とうてい表記で残すことは無理なことです。従いまして、音声をしっかり残さなければなりません。

次世代へ継承しながら、音声そして適切な表記と共に残していかなければ、言葉はなくなっていくでしょう。

字富盛の言葉の特徴の一つとして、抑揚を別にしますと、表記で見られるのは、例えば私が育った字上田原での「肝打たつとーしがてー」に対して字富盛では

「肝打たつとーしがてー」になります。

石原さんから貴重な音声テープを提供していただき感謝申し上げます。

今後も各地域の話者から音声を収録して私どもの書き方で表記していきたいと考えております。

船津好明さんから原稿をいただくまでは、実は私も昔の県の定めについて知りませんでした。

昭和15年の県布令にもとづいて整理され、大変勉強になりました。有難うございました。

この会報は、沖縄語にご関心があれば、どなたでも投稿できます。

原稿は趣旨を変えないで、手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

多くの方々に私どもの活動を知っていただくため、ホームページの内容を絶えず更新しております。パソコンをお持ちの方は、どうぞご覧下さいませ。

(國吉)

お問い合わせ

事務局 國吉 眞正 電話&fax 044-988-8065